

# 総合情報メディアセンターNEWS

2020年 7月

第12巻 第2号



## コロナ禍の今、図書館ができること

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総合情報メディアセンターでは、4月20日から休館していましたが、6月1日より利用を再開しました。群馬大学の方針に従い、密にならない環境を用意して、少しでも利用者の皆様にご利用いただけるよう、段階的に利用を拡大しています。

### 段階的な利用拡大について

学生の皆さんの利用を段階的に拡大しています。

～5/31 休館

6/1～ 事前申込による資料の取り置き・貸出

6/15～ 来館予約による資料の閲覧・貸出

7/1～ 来館予約による閲覧席の利用

- グループ学習、飲食ができるスペースは当面利用できません。
- 最新の情報は総合情報メディアセンターWebサイトに掲載しますので、随時ご確認ください。
- ※教職員は事前予約は不要ですが、入館者が多い場合はお待ちいただく場合があります。



### 開館時間について

前期は遠隔授業のため、短縮開館を行っています。

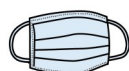
3館とも 平日9:00-17:00 (土日祝休館)

※医学図書館の特別利用は学生は当面中止

### 来館時のお願い

新型コロナウイルス感染防止のため、図書館ご利用時には、以下の点にご協力ください。

- 自宅で検温し、発熱していないことの確認
- マスク着用
- 入館時のアルコール消毒
- 来館は基本的にお一人で
- 予約時間・時間制限を守る
- 他の利用者とは会話しない
- ソーシャルディスタンスを保つ
- 実験・実習・試験等がない場合は、退館後は速やかにキャンパスを出る
- 退館時には、利用報告書を提出

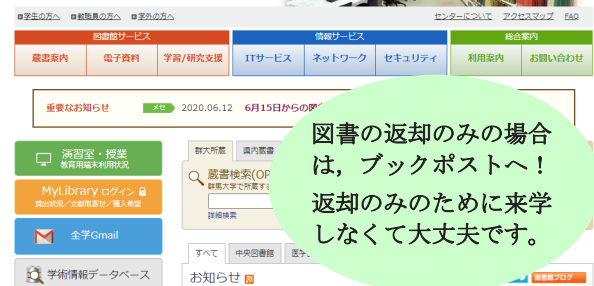


### 図書の返却期限について

学生の皆さんの自宅待機期間が続く間は、返却期限を延長します。

ご自分が借りている図書の返却期限は、My Libraryからご確認ください。

群馬大学総合情報メディアセンター  
Library and Information Technology Center: Gunma University



重要なお知らせ 2020.06.12 6月15日からの期間

図書の返却のみの場合は、ブックポストへ！  
返却のみのために来学しなくて大丈夫です。

### 電子ブックの試読サービスを実施しています

期間限定で、3社の電子ブックを群馬大学で購入していないタイトルも全ページ読むことが出来ます。

図書館に来られない皆さんは、この機会にぜひ電子ブックをご利用ください。学外から利用する時は、SSL-VPNをご利用ください。

Maruzen  
eBook Library



8/7  
まで

KinoDen



9/15  
まで

EBSCO eBooks  
Collection



9/14  
まで

電子ブックの購入リクエストも引き続き受け付けています。Maruzen eBook Library, KinoDenは、プラットフォームからリクエスト可能です。試読してみて、これからは読みたいタイトルがあったら、ぜひリクエストしてください。

※購入リクエストは試読サービス終了後も受け付けます。

## ＜3館同時企画＞新型コロナウイルス対策フェアを開催します

2019年末に中国で発生した新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミックになり、私たちの世界は一変してしまいました。ワクチンや治療薬が開発されたとしても根絶は難しく、将来もウイルスと共存することになると考えられています。

大学に学び、これからの社会のリーダーシップを担う者として、そのような世界で肝要になることはつぎの言葉に集約できます：

『情報を集めること、知識を身につけること、事実と向き合うことが何よりも大切です』

—岩田健太郎『新型コロナウイルスの真実』より

新興感染症はおおむね毎年発生しているとされています。新型コロナウイルスのこれまでを学ぶことで、新たなパンデミックにも対応できる知恵を深めましょう。

(企画発案：総合情報メディアセンター運営委員・医学研究科准教授 村上 徹)

このたび新型コロナウイルス関連の図書を収集・整理し、中央・医学・理工の3館同時に展示してフェアを開催します。展示される図書は各館のニーズに合わせて一部異なります。近くの図書館にないものは他キャンパスの図書館からお取り寄せください。

各館の展示図書は、購入予定のものを含め、ブックログ本棚で見られます。

<https://booklog.jp/users/2020-bookfair-gu>



### 展示される資料

- 新型コロナウイルスやその感染症に関する書籍や雑誌
- 感染対策に関する一般書・医学書
- 感染症の診療に関する医学書
- 公衆衛生学に関する一般書・医学書
- 感染症数理モデルに関する専門書
- ウイルスや細菌、感染症に関する一般書・医学書
- 感染症やパンデミックの歴史、地誌、文学に関する一般書や雑誌
- 養生訓や働き方に関する啓蒙書
- テレワークに関する技術書

## 各館でこんな展示を予定しています

### 中央図書館

新型コロナウイルス感染症に関する図書や雑誌のほか、ステイホーム・おうち時間を楽しくする図書を同時に展示します。

### 医学図書館

新型コロナウイルス感染症に関する医学専門書や医学雑誌はもちろん、一般の人にも分かりやすい資料も揃える予定です。

### 理工学図書館

現在開催中の企画展示「今知りたい感染症」を拡充して展示予定です。

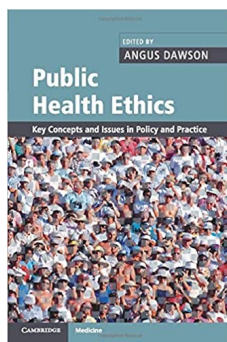
## 今、学生に読んでほしい本 -医学図書館-

小山医学図書館長はじめ、医学部の先生方が、新型コロナウイルス感染を考えるうえで学生に読んでほしい本を推薦してくださいました。新型コロナウイルス対策フェアのコーナーに展示予定です。

### 小山 洋（医学系研究科教授・公衆衛生学・医学図書館長）

Verweij, M. (2011). Infectious disease control. In A. Dawson (Ed.), *Public Health Ethics: Key Concepts and Issues in Policy and Practice* (pp. 100-117). Cambridge: Cambridge University Press.

公衆衛生倫理学の論文集です。特論の一章が「Infectious Disease Control」です。功利主義や自由至上主義の考え方、また、ロールズの正義論なども紹介され、基本的人権を奪う検疫や隔離の考え方、そして一番大切なものは何かが議論されています。



### 神谷 亘（医学系研究科教授・生体防御学）

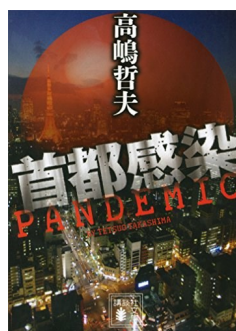
『ビジュアルパンデミック・マップ』サンドラ・ヘンペル著（日経ナショナルジオグラフィック社、2020）

本書は感染症の発生の歴史をわかりやすく、ペストから近年のエボラウイルスやジカ熱の発生を、伝染病の起源から根絶についてそれぞれの感染症に関してわかりやすく記載されています。日本語の監修は国立感染症研究所の竹田誠先生であり、本書は感染症を学ぶ医学部学生にもおすすめです。



### 『首都感染』高嶋哲夫著（講談社文庫、2013）

本書は、強毒性インフルエンザ（架空）を題材に、日本の首都封鎖、ワクチンの開発など、まさにいま世界で起きていることを題材にしています。あくまで、架空のストーリーですが、感染症の対策という観点から読むと、今の状況と酷似しているかも知れません。



### 内田満夫（医学系研究科准教授・公衆衛生学）

『パンデミック・シミュレーション：感染症数理モデルの応用』大日康史，菅原民枝著（技術評論社，2009）

このたびの新型コロナウイルスの流行で“感染症数理モデル”に注目が集まりました。流行を予測して医療資源等を準備することは、公衆衛生学の観点からも重要です。この機会に本書を読んで理解を深めましょう。



### 『感染症と文明：共生への道』山本太郎著（岩波新書，2011）

人類の歴史にはたびたび感染症が登場します。感染症対策は歴史に学ぶところがあり、数々のヒントを見つけることができます。本書のテーマである“共生”は、新型コロナウイルス感染症への答えかもしれません。

### 村上 徹（医学系研究科准教授・機能形態学）

『WHOをゆく：感染症との闘いを超えて』尾身茂著（医学書院，2011）

尾身茂氏（独立行政法人地域医療機能推進機構理事長）は、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の副座長を務め、マスコミにも度々登壇しています。好々爺のような風貌ですが、かつてWHOで西太平洋地域のポリオ根絶を主導し、SARS対策の陣頭指揮を執るなど、世界に冠たる業績をお持ちです。本書には、尾身氏が青春の彷徨の末に公衆衛生を目指した経緯、WHO勤務時代の感染症との戦い、今後の社会の在り方が記されています。



### 『Newsweek 日本版』2020年 6/9号「検証：日本モデル」

西浦 博氏（北海道大学教授，8月より京都大学）はいまは「8割おじさん」として知られ、理論疫学の日本の第一人者として厚労省クラスター対策班の数理モデルを主導してきました。西浦氏は、新型コロナウイルスが発症前に感染のピークがあることをデータをみて早くから見抜いていたといいます。本号では、その西浦氏が自身の数理モデルを解説します。

## ファイル共有サービス使ってますか？

皆さんは誰かとファイルを共有したい時、どうして  
ますか？

メール添付で送信？

楽ちんですもんねえ、メール添付！！

でも、添付ファイルの容量が大きいと相手が受け  
取れなかったり、そもそも、送信できなかつたり  
します。「受信者のメールボックスが一杯になっ  
ています。」なんてメールが返ってきてしまう原  
因の一因にもなっているんでしょうね。

また、メールには情報漏洩のリスク（誤送信、盗  
聴、添付ファイル誤り等）が潜んでいますし、昨  
今のフィッシングメールの現状を考えると、受信  
者としてはあまり好ましいファイルの受け取り方  
法ではないように思えます。



一方、勉学、研究、業務等で作成したファイルは  
どこに保存していますか？

普段使用してるPCの中？

もし、PCが壊れたらデータは消失？運良くバック  
アップがあっても直近のデータは戻りません。

また、別の環境で作業する時はUSBメモリにコ  
ピー？

USBメモリを紛失したらデータをなくすだけでな  
く、情報漏洩になりますね…。



これらのお悩みを解決してくれるのが、そう  
「ファイル共有サービス」です。今回は知らない  
ともったいないファイル共有サービスの紹介で  
す。

総合情報メディアセンターで提供しているファイ  
ル共有サービスは以下の3つです。

### 教職員用ファイル共有サービス（Proself）

群馬大学で運用しているサービスです。保存容量  
は教職員1人当たり10GBです。学生には個人用保存  
領域は割り当てていません。

グループで共有フォルダを作成することもできま  
す。

※ 研究データを学外に置くなんで... という場合  
にオススメです。

### Googleドライブ

Google社によるサービスです。保存容量は無制限  
です。

共有ドライブでチームでのファイル共有もできま  
す。

※ Gmailとの相性バッチリです。

### One Drive

マイクロソフト社によるサービスです。

Office365との連携などマイクロソフト製品との親  
和性が高いです。

保存容量は1人当たり1TBです。

卒業と同時に使用できなくなりますので、ご注意  
ください！！

大学院に進学した場合でも、学部時代に作成した  
ファイルにアクセスできなくなります。

※ Office 365との相性バッチリです。

それぞれ特徴がありますので、どれが一番とかは  
有りません。

詳細は「[https://www.media.gunma-u.ac.jp/  
ITservices/fs/](https://www.media.gunma-u.ac.jp/ITservices/fs/)」をご覧ください。

最後になりますが、ファイル共有サービスに置い  
たデータも消失の可能性がないわけでは有りませ  
ん。誤って自分で消してしまうこともありますよ  
ね。大切なデータは定期的にバックアップを取り  
ましょう。

（総合情報メディアセンター 齋藤貴英）



群馬大学総合情報メディアセンター

荒牧地区:前橋市荒牧町4-2  
昭和地区:前橋市昭和町3-39-22  
桐生地区:桐生市天神町1-5-1


TEL (027) 220-7170  
FAX (027) 220-7184



本コンテンツは、クリエイティブ・コモンズの表示-改変  
禁止 3.0 ライセンスのもとでライセンスされています。

Webサイト <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

図書館ブログ <https://blog.media.gunma-u.ac.jp/>

Twitter公式アカウント  @Media\_Gundai